

こたえ **ダモクレスの剣** けん**ダモクレスの剣** けん

(古代ギリシャの伝説)

昔、シチリア島のシラクサという国に、ディオニシオスという王がいました。王のそばに仕えるダモクレスは、いつも、王の暮らしをうらやましく思い、「王様ほど幸せな人はいません。」と口にしていました。王は、たくさんの宝や広い宮殿きゅうでんを持ち、国じゅうの人々をしがえていたからです。

ある日、王はダモクレスに言いました。「それなら、一日だけ、わたしの代わりに王の席に座ってみるがよい。」

ダモクレスは大喜びで、ごうかなごちそうが並ぶ席に着きました。ところが、ふと天井を見上げると、自分の頭の真上に、一本のするどい剣けんが、たった一本の馬の毛でつるされているではありませんか。

ダモクレスは、ごちそうを味わうどころではなくなり、青ざめて、王に席を代わってくれようたのみました。

王は言いました。「王の暮らしとは、こういうものなのだ。いつも、命をねらわれる危険と、となり合わせなのだよ。」

ダモクレスは、それから二度と、王の暮らしをうらやむことはなかったといえます。この話から、栄えている中にも、常に危険がひそんでいることを、「ダモクレスの剣」と言うようになりました。

1 **王** けん
の暮らし

2
ダモクレスの頭の真上には、何がつるされていましたか。

イ
するどい剣 けん
大きな鏡
ア かんむり
ウ

3
ダモクレスが、ごちそうを味わうどころではなくなったのは、どうしてですか。

頭の真上に、馬の毛一本で剣けんがつるされていて、こわかったから。

4
王は、ダモクレスに、どんなことを伝えたかったのですか。

王の暮らしは、いつも命をねらわれる危険ととなり合わせだということ。

おうちの方へ

・ うらやましく見える立場にも、見えない苦労や危険がある、ということを考えさせましょう。